全国農業高校・農業大学校デジタルコンテスト審査要領

■ホームページ部門

●審査方法

* １次審査：全国の農業高校（農業系学科を設置している高校を含む）及び農業大学校・民間農業研修教育機関を対象に審査評に基づき審査。その点数に基づき、農業高校は各都道府県代表48校（北海道は2ブロック）、特別推薦枠数校を選出、農業大学校及び民間農業研修教育機関についても数校を選出。

審査はアグリプラットフォームコンソーシアム幹事企業及び事務局で実施。

* 本審査：本審査員によって審査を実施。

審査終了後に審査員会を開催。一次審査選出校を対象に審査し、数校を選出。

（表彰校数は協賛企業・団体により変更の可能性あり）

●審査項目

【審査のポイント】

「夢のある農業を描き、自分たちらしい活動をしているか」

1-1. 学校の特徴や独自の活動をホームページやSNSを有効に活用して積極的に発信できているか

1-2.　情報更新頻度・知りたい情報を簡単に見つけ出せるか

2-1. デジタル技術(ドローン、環境制御装置、人工知能等)の活用などに取り組んでいるか

※今年度より高校の授業でスマート農業に関する内容を盛り込んだカリキュラムを実施

※環境制御装置はハウス内外の環境（温湿度、日射量、風速、CO₂濃度等）を各種センサーで自動測定し、タブレット等において確認したり、自動で天窓の開閉やかん水等のイメージ

2-2.　オリジナリティのある取り組み、新たな取り組みに挑戦しているか

2-3. 他校、他分野(産業界、農業関連機関)、地域、海外などとの連携を実現する取り組みがあるか（海外連携は交流・研修の活動等）

3．環境に配慮した農業（農業生産工程管理(GAP)や有機農業など）をはじめとするSDGsに資する取り組みなど現在の日本の農業界にとって有効と感じる活動がある

４. その他取り組みや活動など、上記以外の評価できる点がある

※得点（項目１～３各10点／60点満点）及び4.の評価を加味し、得点上位から各賞を決定

■スマート農業部門

**【実践コース】**

**テーマ：スマート農業の導入や独自の活動による地域課題解決やスマート農業普及拡大の取組**

●審査方法

-　本審査：審査員によって審査を実施。

審査終了後に審査員会を開催。応募作品を審査し、（2校）を選出。

（協賛企業・団体により変更の可能性あり）

 ※なお、応募作品の全体数が10点を越える場合は、農林水産省において、事前審査を行い、本審査に選出する作品を10点選出する。

●審査項目

【審査のポイント】

「スマート農業の導入や独自の活動により地域の課題解決やスマート農業の普及拡大に貢献できたか」

・スマート農業の導入や独自の活動による地域課題解決やスマート農業の普及拡大の成果

・取組内容の独創性

・作品の構成が見やすく、伝わりやすいものになっているか

（本審査）

１．スマート農業の導入や独自の活動による地域課題解決やスマート農業の普及拡大の成果（60点満点）

２．取組内容が今までにない独創的なものであるか（20点満点）

３．作品の構成が見やすく、伝わりやすいものになっているか（20点満点）

４．その他、上記以外の評価すべき点がある

※得点（100点満点）及び4.の評価を加味し、得点上位から各賞を決定

**【アイデアコース】**

**テーマ：私たちの描く2050年の農業**

●審査方法

-　本審査：審査員によって審査を実施。

審査終了後に審査員会を開催。応募作品を審査し、（2校）を選出。

（協賛企業・団体により変更の可能性あり）

 ※なお、応募作品の全体数が10点を越える場合は、（（案）農林水産省）において、事前審査を行い、本審査に選出する作品を10点選出する。

●審査項目

【審査のポイント】

「現状のスマート農業を踏まえ、若者らしい柔軟な発想で未来の農業の発展につながる可能性があるアイデアか」

・現状を正確に把握し、未来の農業の発展につながることを期待させるアイデアであるか

・アイデアの独創性

・作品の構成が見やすく、伝わりやすいものになっているか

（本審査）

1. 現状を正確に把握し、未来の農業の発展につながる可能性のあるアイデアであるか

（50点満点）

２．現在のスマート農業技術の枠組みにとどまらず、柔軟な発想や手法等に基づき、独創性の高いアイデアであるか（30点満点）

３．作品の構成が見やすく、伝わりやすいものになっているか（20点満点）

４．その他、上記以外の評価すべき点がある

※得点（100点満点）及び4.の評価を加味し、得点上位から各賞を決定